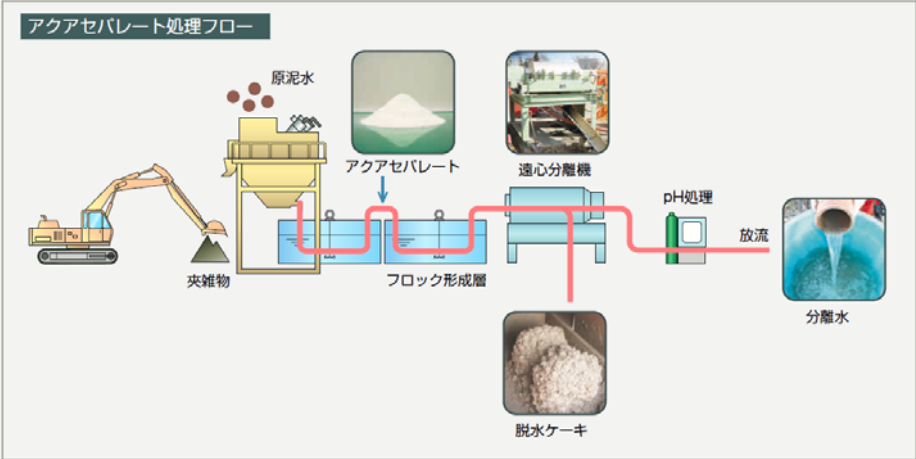
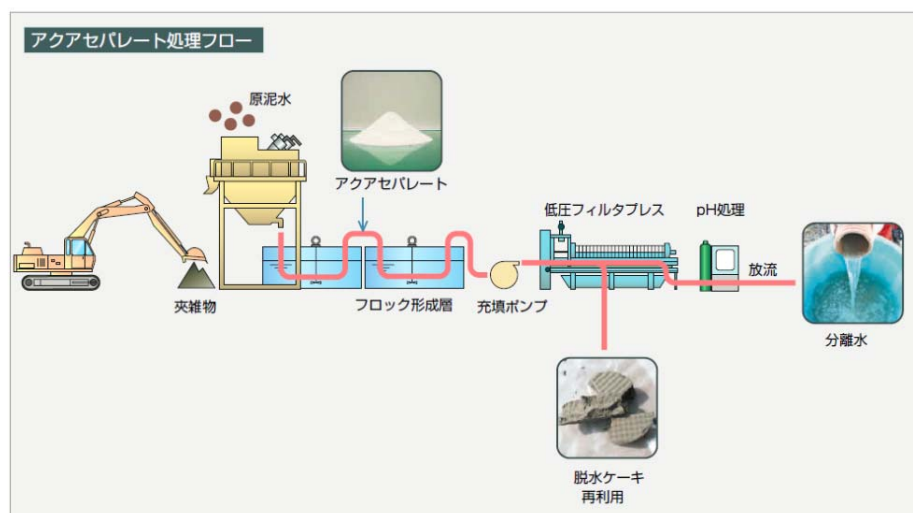


整理 No.	88	分類	その他
会社名	(株) 銭高組技術本部		
担当者	原田 尚幸 (技術研究所)		
連絡先	TEL	03-5210-2440	FAX 03-5210-2462
	E-mail	harada_naoyuki@zenitaka.co.jp	
技術の名称	アクアセパレートを用いた浚渫土処理システム		
概要 (150 字程度)	アクアセパレート工法は、比重 1.10～1.35 程度の高濃度泥水や高含水浚渫土を対象として、特殊水溶性ポリマーと無機系凝集剤を組合わせた粉末凝集剤 (アクアセパレート) を適用する減容化処理システムです。		
技術登録等	なし		
技術の概要	アクアセパレートは、フロック形成時の「凝集性が高い」また脱水時における固形分と水分の「分離性が高い」等の特徴があるため、特に浚渫工事で発生する高含水浚渫土の固液分離に効果を発揮して、排出土量を大幅に削減します。また、目的・用途に応じて処理方法が選択でき、リデュース (減容化)、リユース (再利用)、リサイクル (再資源化) を促進し、環境負荷の低減と処理費用のコストダウンを可能にします。本システムには遠心分離方式と加圧ろ過方式があります。 <u>○遠心分離方式</u> 遠心分離方式では、少量のアクアセパレートにより高凝集のフロック形成が容易で 40～50%程度に減容化が図れます。また、小スペースの設備で下水道の水質基準 (濁度、pH) を充足して放流が可能です。 アクアセパレート処理フロー 		
次頁	あり・なし		

技術の概要
(つづき)

○加圧ろ過方式

加圧ろ過方式では、アクアセパレータの適用により標準フィルタプレス（圧カレベル 0.6～0.8MPa）を用いた場合でも、高圧フィルタプレス（圧カレベル 4MPa）と同程度の強度を有する脱水ケーキが形成でき経済性に優れています。



○現場適用事例

河川浚渫の現場を対象に本システムを適用した結果、減容化率（原泥水に対する減容化された土の体積比率）は 4.6%と高い脱水性能が確認されました。また、固液分離された分離水は、濁度、PHとも河川の水質基準を満足し、土壌汚染に係わる環境基準 26 項目に関しても測定下限値以下であることが確認されました。